

ブラックロック・ワールド債券ファンド (為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)

ブラックロック・ワールド債券ファンド (為替ヘッジなし)

第49期末(2023年9月19日)	
基準価額	13,678円
純資産総額	1,138百万円
騰落率	5.4%
分配金	15円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

ブラックロック・ワールド債券ファンド (為替ヘッジあり)

第49期末(2023年9月19日)	
基準価額	8,924円
純資産総額	130百万円
騰落率	△5.7%
分配金	0円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を開覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

追加型投信／海外／債券 交付運用報告書

第49期(2023年9月19日決算)

作成対象期間(2023年3月17日～2023年9月19日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)」は、このたび、第49期の決算を行いました。当ファンドは、世界主要国の国債等(国債、政府機関債、国際機関債)を中心に公社債に投資し、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。当期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、今期の運用経過について、ご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号
丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問い合わせ先

電話番号: 03-6703-4300

(受付時間 営業日9:00～17:00)

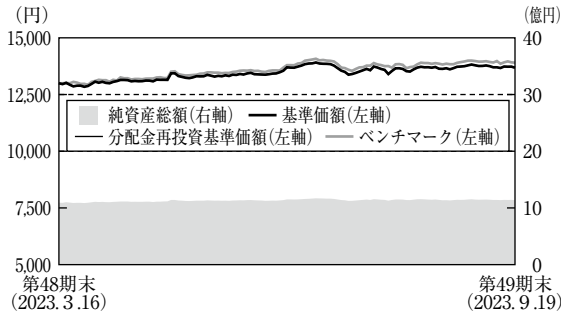
ホームページアドレス

www.blackrock.com/jp/

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について(第49期:2023年3月17日~2023年9月19日)



第49期首 : 12,997円
 第49期末 : 13,678円(既払分配金15円)
 騰落率 : 5.4%(分配金再投資ベース)

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額の期中騰落率は5.4%となりました。当期はグローバルで金利が上昇しましたが、為替市場では、円安が進行したことでワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)が上昇したことが、プラス要因となりました。

■組入ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	6.0%

- * 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- * ベンチマークは、F T S E 世界国債インデックス(円ベース)です。詳細につきましては後記をご覧ください。
- * 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

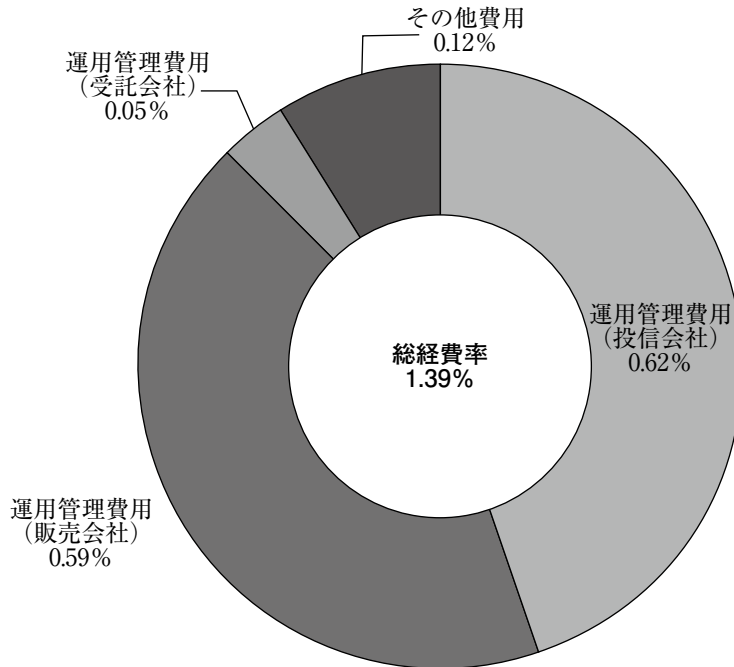
■1万口当りの費用明細

項目	第49期 (2023. 3. 17~2023. 9. 19)		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	87	0.647	信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は13,448円です。
(投信会社)	(42)	(0.316)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(41)	(0.304)	販売会社分は、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(4)	(0.028)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.004	売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(1)	(0.004)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 / 期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	8	0.063	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(保管費用)	(8)	(0.063)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	96	0.714	

- (注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
- (注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



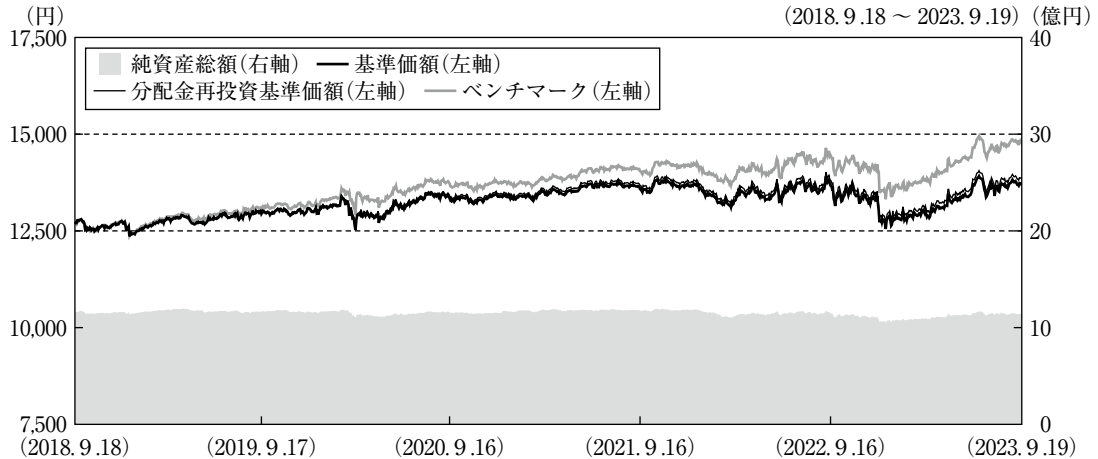
※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.39%です。

(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年9月18日の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2018年9月18日 期初	2019年9月17日 決算日	2020年9月16日 決算日	2021年9月16日 決算日	2022年9月16日 決算日	2023年9月19日 決算日
基準価額(分配落) (円)	12,682	12,939	13,343	13,581	13,674	13,678
期間分配金合計(税込み) (円)	—	30	30	30	30	30
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	—	2.3	3.4	2.0	0.9	0.3
F T S E世界国債インデックス (円ベース)騰落率	—	2.9	5.1	2.3	2.9	2.2
純資産総額 (百万円)	1,156	1,162	1,156	1,176	1,146	1,138

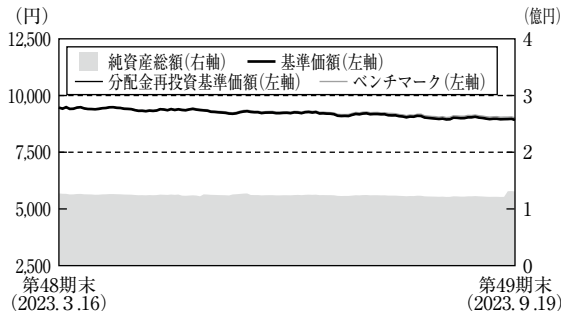
* ベンチマークは、F T S E世界国債インデックス(円ベース)です。

* F T S E世界国債インデックスとは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について(第49期:2023年3月17日～2023年9月19日)



第49期首: 9,467円
 第49期末: 8,924円 (既払分配金 0円)
 騰落率: -5.7% (分配金再投資ベース)

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額の期中騰落率は-5.7%となりました。当期はグローバルで金利が上昇したことから、ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)が下落したことが、マイナス要因となりました。

■組入ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	△5.1%

- * 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- * 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- * ベンチマークは、F T S E 世界国債インデックス(円ヘッジ円ベース)です。詳細につきましては後記をご覧ください。
- * 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

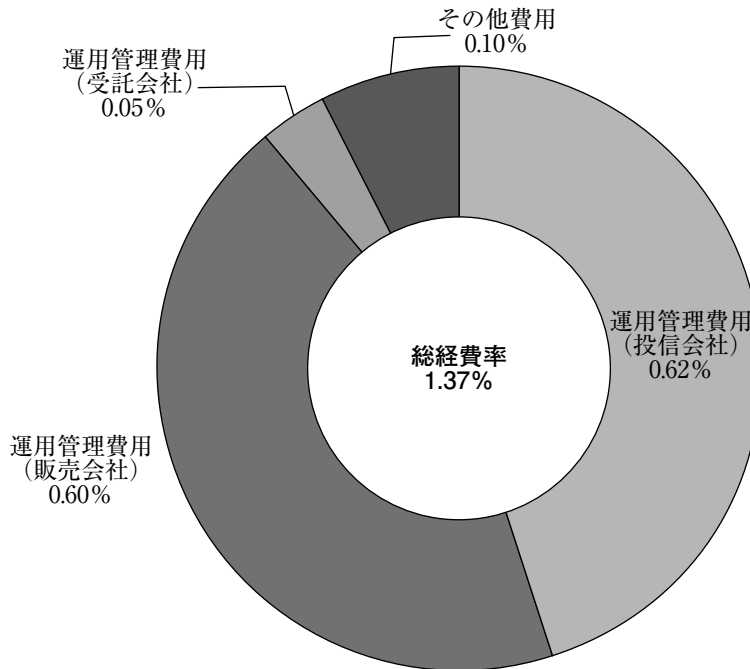
■1万口当りの費用明細

項目	第49期 (2023.3.17～2023.9.19)		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	60	0.650	信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は9,219円です。
(投信会社)	(29)	(0.318)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(28)	(0.305)	販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(3)	(0.028)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.004	売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数
(先物・オプション)	(0)	(0.004)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 / 期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	5	0.050	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(保管費用)	(5)	(0.049)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	65	0.704	

- (注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
- (注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



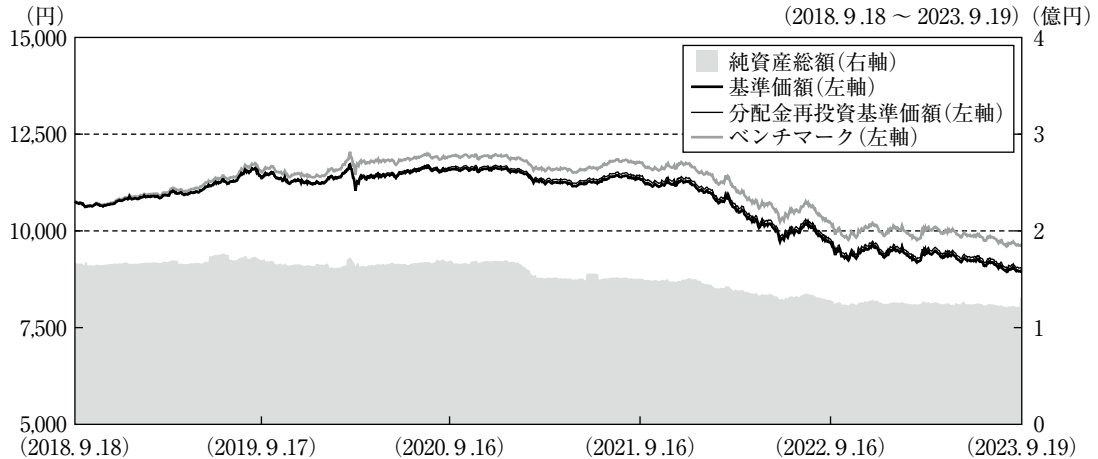
※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.37%です。

(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年9月18日の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2018年9月18日 期初	2019年9月17日 決算日	2020年9月16日 決算日	2021年9月16日 決算日	2022年9月16日 決算日	2023年9月19日 決算日
基準価額(分配落) (円)	10,759	11,363	11,578	11,337	9,690	8,924
期間分配金合計(税込み) (円)	-	30	30	30	15	0
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	5.9	2.2	△ 1.8	△ 14.4	△ 7.9
F T S E世界国債インデックス (円ヘッジ円ベース)騰落率(%)	-	7.0	3.5	△ 1.3	△ 13.3	△ 6.0
純資産総額 (百万円)	166	169	169	150	128	130

* ベンチマークは、F T S E世界国債インデックス(円ヘッジ円ベース)です。

* F T S E世界国債インデックスとは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

投資環境について

<米国債券市場>

米国債券市場では、インフレ指標に鈍化が見られ始めているものの、依然高い水準であることや堅調な労働市場が継続する中、米連邦準備制度理事会(FRB)は政策金利を引き上げました。期中、米地銀の破綻を発端とする金融セクターの信用不安懸念を背景に市場センチメントが悪化し金利が低下する局面も見られたものの、引き続き米国の労働市場が堅調であることを示す指標を筆頭に堅調な米国経済が意識され金利は上昇しました。

3月、シリコンバレーバンク(SVB)の破綻を発端にリスクオフ姿勢が強まり金利は大きく低下しました。4月、予想を上回る米銀決算や経済指標の上振れを背景に金利が上昇する局面も見られたものの、月末にかけてはファースト・リパブリック銀行の預金残高が予想より大幅に減少していたことで金融セクターの信用不安懸念が再燃し、リスクオフとなり金利が大きく低下しました。5月、米連邦公開市場委員会(FOMC)では市場予想通り25bpsの利上げが実施されました。その後、米債務上限問題がセンチメントの重石となったものの、FOMCメンバーのタカ派発言等を受け6月会合における利上げ期待が急上昇したことから米国金利は上昇しました。6月、FOMCでは概ね市場予想通りの利上げ休止とともに年内に50bpsの利上げを織り込むタカ派な経済見通しが発表されました。月末にかけては、引き続き米国の労働指標が堅調であることを示す指標や1-3月期のGDPが上方修正されるなど景気の底堅さが示されたことから金利は上昇しました。7月、6月のCPIが市場予想を下回るなどインフレの鈍化を示す指標を受け、金利が低下する局面も見られたものの、月末にかけては労働市場の堅調さを示す経済指標や市場予想を上回る4-6月期GDP速報値などが発表されたことで、FRBによる引締め懸念が高まり金利は上昇しました。8月、大手格付け会社Fitch社が米国の外貨建て長期債務格付けを引き下げたことや国債の増発が発表されたことを背景に金利は上昇しました。また、NY連銀が自然利子率(中立金利)が上昇した可能性があること述べたことから金利は上昇基調を継続し、月末に開催されたジャクソンホール会議は大きなサプライズなく終了しました。9月に入ってからは、ハト派なFOMCメン

バーのコメントを受け金利低下する局面も見られたものの、起債が多くみられ金利上昇しました。10年債利回りは4.33%近辺で当期を終えました。

<欧州債券市場>

欧州債券市場では、金融システム不安や一時インフレの鈍化が確認されたことから、金利低下となった局面が見られたものの、引き続きグローバルに底堅い経済成長が見られたこと等から金利は上昇基調となりました。

3月、米SVBの破綻やクレディ・スイス問題を受け、金融システム不安が広がり、金利は低下しました。4月、米英金利の上昇に追随し金利が上昇した局面も見られたものの、ドイツやスペイン等のCPI(消費者物価指数)が予想比下振れたことを背景にECBによる過度な利上げ観測が後退したことや米中堅銀行の軟調な決算が市場センチメントの悪化に繋がって金利が低下し、前月末比小幅上昇で月を終えました。5月上旬のECB会合においては市場予想通りの25bpsの利上げが行われ、APPの償還再投資を7月で終了すると発表されました。月末にかけては、インフレ指標が予想比下振れたことから利上げ観測が後退し金利は低下しました。6月中旬に開催されたECB会合においては市場予想通りの25bpsの利上げが行われました。インフレ見通しがヘッドライン・コアともに2023年から2025年まで上方修正されたことがタカ派と捉えられ、金利は上昇しました。7月、引き続きグローバルに底堅い経済成長率がみられたことから、長期金利は上昇したものの、ECBメンバーのハト派発言や予想を下回る欧州PMI等を背景に短期金利主導で金利低下となりました。8月、中国不動産企業の破産等を背景とする中国経済の先行き不安、欧州各国のPMIが予想を下振れたことやECBメンバーによるハト派発言等を背景に金利は低下しました。9月に入り開催されたECB会合において25bpsの利上げが実施されたものの、声明文のタカ派トーンは大きく後退した。ドイツ10年債利回りは2.67%近辺で当期を終えました。

<日本債券市場>

日本債券市場では、実質YCC(イールドカーブ・コントロール)バンドの拡大が決定されたことから金利が上昇しました。期末にかけては、植田総裁のイ

インタビューがタカ派であったことから金利が上昇しました。

3月、欧米の金融システム不安が根強く、リスク回避の買いが優勢となり、金利は低下しました。4月、月末の日銀政策決定会合で政策変更なしという結果を受け、債券市場は大きく買い戻しが見られました。5月、米国が市場予想通り25bpsの利上げを実施した後は、利上げサイクルの終了が意識され海外債券市場はボラタイルな動きとなったものの、国内債券市場では比較的狭いレンジ内での推移が続きました。6月、日銀が大規模緩和維持の姿勢を継続したこともあり、国内債券市場は小幅の利回り低下となりました。7月、日銀政策決定会合で、10年債利回りの変動幅について±0.5%程度を目途として残しつつ、全営業日実施の金額無制限、固定金利指値オペの水準を0.5%から1.0%に変更したことで、YCCバンドの実質的な拡大を決定しました。これを受けて債券利回りは、長期、超長期セクターを中心に大幅に上昇しました。8月、前月末の日銀のYCCバンドの拡大、米国債市場の月前半を中心とした利回り上昇等を背景に、国内債券市場は超長期セクターを中心に利回り上昇圧力を受けました。9月に入り、単独インタビューにおける植田総裁のタカ派発言を受け金利は上昇しました。10年債利回りは0.72%付近で当期を終えました。

ポートフォリオについて

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

当期、「ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)」を高位に組み入れた運用を行いました。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

当期、「ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)」を高位に組み入れた運用を行いました。

<ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

米国では、バリュエーションや市場における一連のリスク要因を鑑みた取引を行うなかで、デレートを機動的に調整しました。当期初においては、3月の金融システム不安を受けデレートをア

ンダーウェイトからオーバーウェイトに変更しました。不安定な市場環境が継続するとみて、デレレーション・ポジションのオーバーウェイト幅を維持していたものの、その後は引き続き米国の労働市場が堅調であることを示す指標や米国経済の成長率が予想を上回る内容であったことから、FRBによる金融引き締めが継続するとみて、デレレーションのオーバーウェイト幅を徐々に削減しました。期後半にかけては、パウエル議長が金利を景気抑制的な水準で維持する方針であると表明したものの、予想を下回った8月米CPIなどの経済指標等でインフレ圧力の鈍化が見られ始めたことを背景に追加利上げ観測が後退するとともに当期末にかけてデレレーションを追加し、機動的に調整しつつ、オーバーウェイトとしました。

カーブ戦略については、期を通して機動的に調整しつつステイプナーを維持しました。短期については期後半に米国経済が概ね堅調である中、前述の通り一部の経済指標に鈍化が見られていることや利上げが終盤であることを意識し、短期のオーバーウェイト幅を拡大しました。

欧州のデレレーションは、機動的に調整しつつ、当期末時点で概ねオーバーウェイトとしました。ドイツ金利については、期初から8月ごろまでは概ね中立としていたものの、その後はインフレ指標の鈍化やECBメンバーによるハト派発言等を背景にECBによる金融引き締めは終盤であることを意識し、足元にかけてオーバーウェイトとしました。

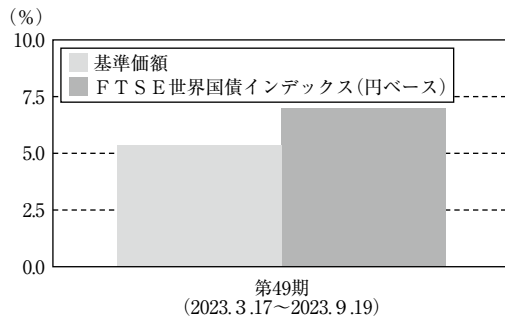
社債に関しては、健全なファンダメンタルズや良好な需給環境がポジティブ材料になると見込み、米国投資適格社債への小幅な配分を維持しました。米国投資適格社債は、3月前半にかけスプレッドが大きく縮小したことを背景に保有を削減していたものの、3月の金融システム不安を受け、スプレッドが大きく拡大し、バリュエーションの魅力が高まったと考え保有を増やしました。期末にかけては、FRBやECB等の中央銀行の政策金利が十分に引き締める水準まで引き上げられたとの認識が広がり、不透明感が後退したことや堅調な需給環境を背景に保有を増やしました。

ベンチマークとの差異について

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

当期の基準価額の期中騰落率は5.4%となり、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(円ベース)の7.0%を下回りました。

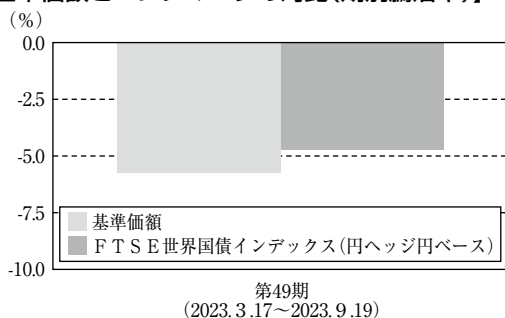
【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】



<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

当期の基準価額の期中騰落率は-5.7%となり、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(円ヘッジ円ベース)の-4.7%を下回りました。

【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】



(主なプラス要因)

・米国投資適格社債の保有

(主なマイナス要因)

・米国デフレーション・ポジションのオーバーウェイト

・米国利回りカーブのポジショニング

分配金について

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

収益分配金は基準価額水準、市場動向等を勘案して1万口あたり15円とさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期 2023年3月17日 ~2023年9月19日
当期分配金(税込み)	15円
対基準価額比率	0.11%
当期の収益	15円
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	5,751

(注1)「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。

また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

収益分配金は基準価額水準、市場動向等を勘案して、見送りとさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期
	2023年3月17日 ～2023年9月19日
当期分配金(税込み)	-円
対基準価額比率	-%
当期の収益	-円
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	2,298

(注1)「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2)円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

引き続き、「ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)」を高位に組み入れる運用を行う方針です。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

引き続き、「ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)」を高位に組み入れる運用を行う方針です。

<ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

グローバル経済は、インフレ動向、堅調な経済指標、景気後退懸念、および金融引き締めなど短期的には不透明要素が引き続き多く存在しています。

F R Bやその他中央銀行が現在市場に織り込まれている水準以上に政策金利を引き上げる可能性は低いと見ており、デュレーション・ポジションは機動的に調整します。

社債については、バリュエーションを踏まえ、米国の投資適格債などの高格付けのクレジット資産を愛好する方針です。一方、バリュエーションは魅力的であるものの足元の投資環境に照らしてリスクが高いと思われる資産に対しては、機会をうかがいつつも慎重に検討していく方針です。

◇お知らせ

ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)

市況環境等を勘案して信託報酬率の見直しを行った結果、信託報酬率を引き下げることが適切であると判断された為、信託報酬率の変更を行いました。

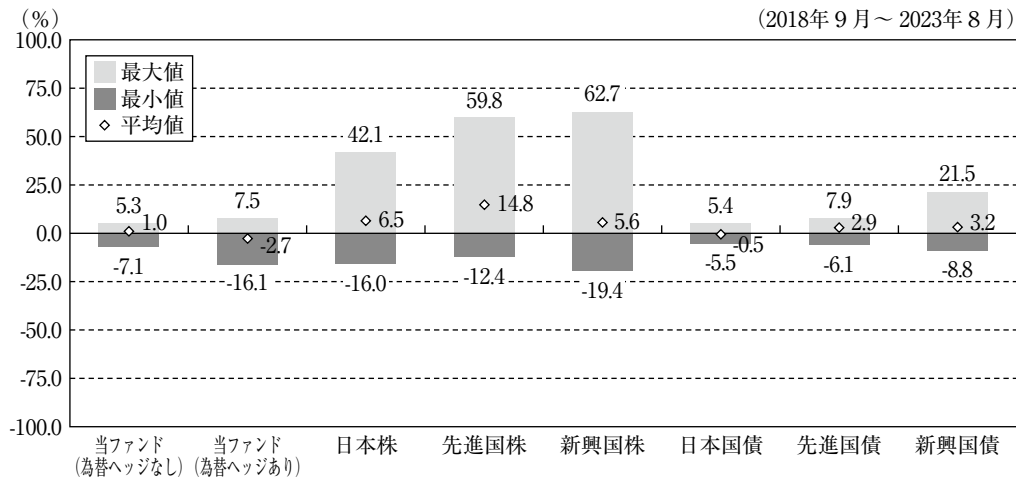
(変更日:2023年7月28日)

◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信/海外/債券	
信託期間	無期限です。(設定日:1998年12月1日)	
運用方針	世界主要国の国債等を中心に公社債に投資し、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行います。	
主要投資対象	子投資信託	【ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)】 ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)受益証券を主要投資対象とします。 【ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)】 ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)受益証券を主要投資対象とします。
	親投資信託	【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)】 世界主要国の国債等を中心に公社債に投資します。
運用方法	<p>【ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)】</p> <p>①マザーファンド受益証券への投資を通じて、世界主要国の国債等を中心に公社債に投資し、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。</p> <p>②F T S E 世界国債インデックス(円ベース)をベンチマークとし、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。</p> <p>③運用の指図に関する権限をブラックロック・グループの運用会社へ委託します。</p> <p>④原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>【ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)】</p> <p>①マザーファンド受益証券への投資を通じて、世界主要国の国債等を中心に公社債に投資し、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。</p> <p>②F T S E 世界国債インデックス(円ヘッジ円ベース)をベンチマークとし、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。</p> <p>③運用の指図に関する権限をブラックロック・グループの運用会社へ委託します。</p> <p>④原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。</p>	
分配方針	<p>年2回の毎決算時(3月16日、9月16日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <p>■分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買損益(評価損益も含みます。)等の全額とすることができます。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</p> <p>■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p> <p>※基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>	

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*上記は、2018年9月～2023年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

*各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有する我が国を代表する指数です。東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値および東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行われるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

◇ファンドデータ

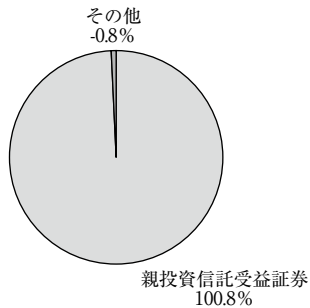
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

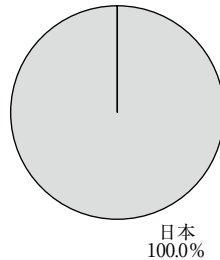
	比率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	100.8%
その他	-0.8

(注) 比率は第49期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

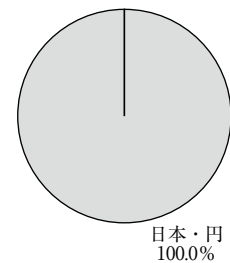
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第49期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

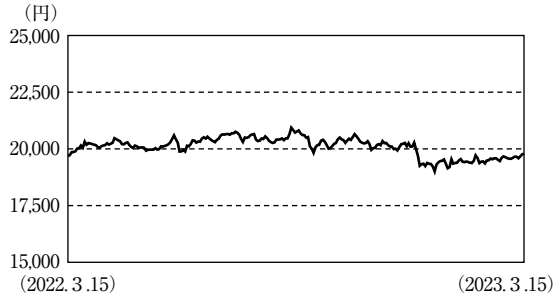
項目	当期末
	2023年9月19日
純資産総額	1,138,440,702円
受益権総口数	832,314,101口
1万口当り基準価額	13,678円

* 当期中における追加設定元本額は40,811,220円、同解約元本額は48,974,975円です。

■組入上位ファンドの概要

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

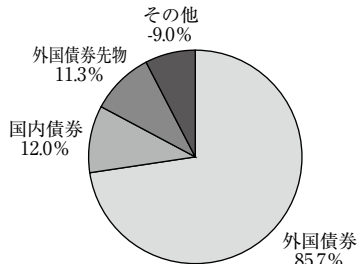
銘柄名	通貨	比率
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 3.25% 2024/08/31	米・ドル	8.4%
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.5% 2024/02/29	米・ドル	6.8
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 2.25% 2024/03/31	米・ドル	6.3
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 3% 2024/06/30	米・ドル	4.5
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 0% 2026/02/25	ユーロ	2.5
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 0.6% 2023/06/15	ユーロ	2.4
1136国庫短期証券	日本・円	2.1
356 10年国債	日本・円	2.0
BUNDESREPUBLIK DEUTSCHLAND BUNDESANLEIHE 0% 2029/08/15	ユーロ	1.8
54 30年国債	日本・円	1.7
組入銘柄数	212銘柄	

○1万口当りの費用明細

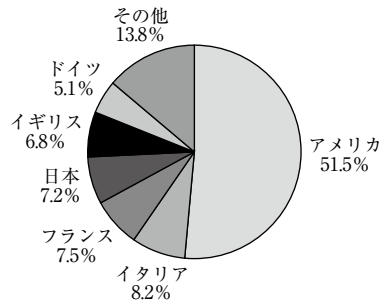
(2022.3.16~2023.3.15)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2円 (2)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	21 (21) (0)
合計	23

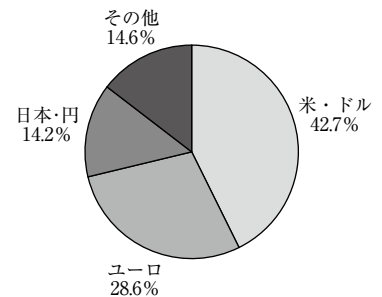
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については1ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

◇ファンドデータ

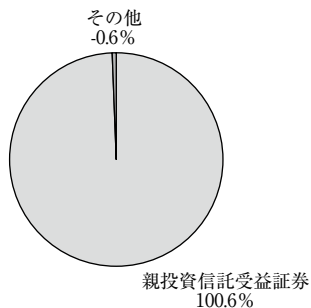
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

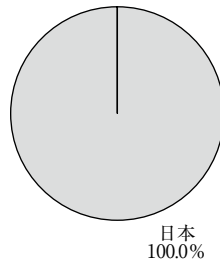
	比率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	100.6%
その他	-0.6

(注) 比率は第49期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

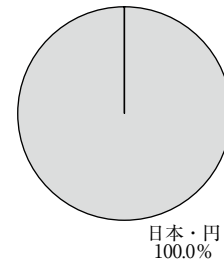
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第49期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

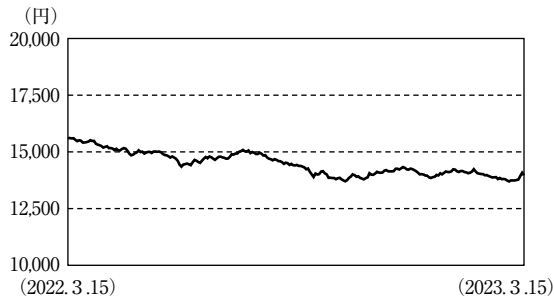
項目	当期末
	2023年9月19日
純資産総額	130,823,020円
受益権総口数	146,599,858口
1万口当り基準価額	8,924円

* 当期中における追加設定元本額は19,664,897円、同解約元本額は7,594,594円です。

■組入上位ファンドの概要

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

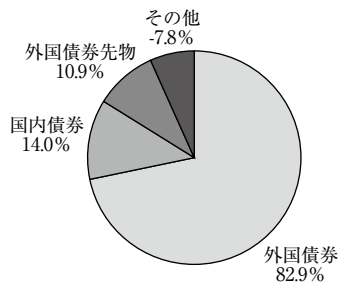
銘柄名	通貨	比率
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 4.25% 2024/09/30	米・ドル	9.0%
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 0.125% 2023/08/31	米・ドル	7.8
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 2.5% 2024/05/31	米・ドル	3.9
1138国庫短期証券	日本・円	3.2
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 2.5% 2027/03/31	米・ドル	2.6
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 0.5% 2027/11/30	米・ドル	2.6
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 0.5% 2027/08/31	米・ドル	2.0
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.25% 2024/08/31	米・ドル	1.8
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.6% 2026/06/01	ユーロ	1.5
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 1% 2027/05/25	ユーロ	1.4
組入銘柄数	264銘柄	

○1万口当りの費用明細

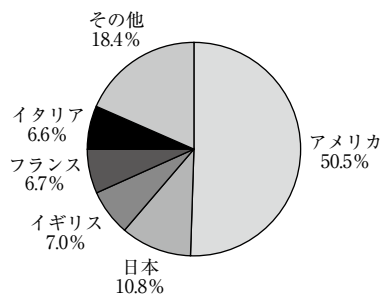
(2022.3.16~2023.3.15)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	1円 (1)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用)	12 (11)
(その他)	(0)
合計	13

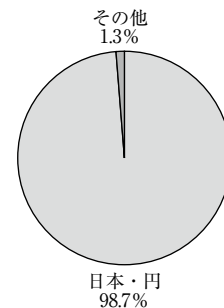
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については1ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。